

令和7年度 大田区立矢口小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年1月30日

【長期的学校目標】 自己の豊かな能力や個性を実現させながら、よく考えて動き、社会の創り手を育てる — 笑顔と あたたかさ あふれる 矢口小学校 —

<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模（児童数520名、学級数18学級、教職員数57名）</li> <li>国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校（家庭科）</li> <li>令和6年9月よりコミュニティスクール指定校</li> <li>地域との協働で取り組む教育活動や事業が多くあり、学校の伝統的な合言葉「地域とともに」「矢口魂」が定着し</li> </ul>	<p>&lt;学校の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○こどもの学力や学びの質の向上</li> <li>○こどもの自主性や主体性、創造性を育む教育活動</li> <li>○自尊感情と自己有用感の醸成</li> <li>○規範意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲の向上</li> <li>○人なつこい</li> <li>○明るい</li> <li>○挨拶日本一を目指している</li> <li>○優しい</li> <li>○地域に育てられている</li> <li>○俳句が好き</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自主性、主体性の向上</li> <li>○基本的な生活習慣の定着（時間厳守・公共マナー）</li> <li>○自己肯定感の向上</li> <li>○家庭学習の習慣化</li> <li>○読解力の育成</li> </ul>	<p>○教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○よく考え、進んで学習する子ども</li> <li>○いつも元気で、じょうぶな子ども</li> <li>○こころ豊かで、やさしい子ども</li> </ul> <p>★目指す児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★やりぬく子</li> <li>★ぐんぐん育つ子</li> <li>★ チャレンジする</li> </ul>	<p>【校内研究】</p> <p>研究テーマ：「自ら学び、ともに学び合う児童の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力の向上</li> <li>○ファンリレーション力の育成</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄							
								評価	人数	コメント					
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社会 を創 造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケートで「まじることについて、いろいろと考えることができた」と回答する割合	4: 80%以上	【成果】 回答者数469名 地域の人々の願いの実現に向け、アンケート結果や地域の方の講話・助言等を生かし、地域の未来をよりよくするための取組が定着している。 【課題】 定期的に機器解体体験やロケット教室を開催し、更に科学教育を充実させる。	A	13	・今年度もいろいろな授業に参加させていただきました。子どもたちは、みんな真剣に取り組んでくれたところがとても印象的でした。子どもたちが一生懸命考えてくれた質問に、こちらが答えているときも、真剣に聞いてくれました。  ・デジタル化が進み、STEAM教育等も進んでいくものと思いますが、家庭そして地域の方々など、人と人とのコミュニケーションも大切に思います。思いやりがある優しい子どもたちに育って欲しいと思います。					
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			児童アンケートで「矢口農園や商店街でいろいろなことを学べた」と回答する割合					3: 70%以上	【成果】 回答者数469名 グリーンボランティアや商店街各店舗からの多大な協力を得て、児童に他者と協働する意識が十分に身に付いている。 【課題】 体験で終わることなく、自己評価を習慣付け、「生産」の観点も取り入れ、更に自ら考え判断する力の向上を図る。			
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								児童アンケートで「タブレットを使ってたくさん学習することができた」と回答する割合		2: 60%以上	【成果】 回答者数 469 名 児童は、学年に応じた方法で、タブレットを活用して自分の意見を発信しており、おおた教育ビジョンの評価項目を達成できている。 【課題】 デジタル技術を用いて社会に参画するために、他者の尊重・相互理解の精神と、安全で責任ある行動倫理を身に付ける必要がある。	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										1: 60%以下		【成果】 回答者数386名 講師による「俳句教室」や長期休業期間の「親子でチャレンジ575」、俳句大会応募等の取組により、言語能力は向上している。
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	2年生以上の児童アンケートで「俳句を考えるのが楽しかった」と回答する割合	4	D	0	・廊下に貼られている俳句を拝見して、子どもだから感じる気持ちに「なるほど～」と思わされます。  ・「方向性」について非常に重要なテーマである一方、学童期に身に付けるには難易度が高い能力でもあるかと思えます。 小さな成果の積み重ね等、継続的な取り組みをご期待申し上げます。成果指標から児童が意欲的に取り組んでいる様子が読み取れますので、評価「A」とさせていただきます。									
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2年生以上の児童アンケートで「俳句を考えたのが楽しかった」と回答する割合	4	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	D		0								
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。															
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。															
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人材 を際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	3年生以上の児童アンケートで、「私は英語の力が高まった」と回答する割合	4: 80%以上	【成果】 回答者数311名 外国語教育指導員と英語講師の専門的な指導者による、段階的な反復指導により、児童の英語言語感覚は伸びている。 【課題】 高学年になるにつれ、英語に対する苦手感の高まりが見られるため、更なる指導の工夫が必要である。	A	11	・今後ますます国際化が進む中、外国語教育は重要と思えます。引き続きご指導いただくようお願いいたします。  ・(課題)英語教育に関しては、教員は目標に向かって一生懸命努力し、成果をあげたと判断しているようだが、児童においては日本語と比べて英語は日常語ではなく、当然苦手意識を持っているからの評価と思われる。今後、教員と児童との評価の相違を考えていくことが必要であろう。					
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			児童アンケートで「英語の学習をとおして、外国のことに興味をもった」と回答する割合					4	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	B	2
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。												
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2: 60%以上	【成果】 回答者数158名 社会との接点を数多く経験させ、「おおたの未来づくり科」の素地を											

	社会を形成していく態度を形成します。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	5,6年生児童アンケートで「おおたの未来づくりの学習を通して、地域や社会のことを考えることができた」と回答する割合		3	この間に、地域の創生やものづくりについて、自ら考え、行動しようとする意識が高まった。 【課題】 長期的な学習カリキュラムとなるように見直ししながら進める必要がある。	C	0	
	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたちはよく挨拶をしている」と回答する割合	4:80%以上	3	【成果】 回答者数474名 区教研道徳部の研究授業に多くの教員が参加し、道徳科の授業改善に取り組む等、道徳科について学ぶ校内環境にある。「小さな親切運動本部」との連携を継続し、学校の「挨拶運動」の取組を評価され、表彰された。 【課題】 今後も継続する。	A	11	・(課題)大項目において③の児童の「早寝」「早起き」「朝ごはん」「運動」「元気」に関して、調査結果は向上したとあるが、取組評価「2」は実に低いですね。児童は毎日のことなのでよく分かっていると思います。評価だけ見ると、『教員は「目標に向かって一生懸命やったから」4です。児童は家庭でこの目標をそれほど頑張っていないので「2」です。』とも言いかねません。教員には、その前に児童の実態を把握しておく必要があるのではないのでしょうか？養護教諭出身の関校長先生の指導で、健康教育の更なる充実を期待しています(今年度は上昇したわけですから)
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」と回答する割合	3:70%以上	4	【成果】 回答者数474名 個々の課題に密接に応じられるよう、支援員体制を拡充して指導を行った。「自学ノート」指導に加えて、タブレットドリルを活用した自由進度学習を取り入れている。 【課題】 学習内容の基礎となる既習事項の確認を行うことで、更に学力の定着を図る。	B	2	・子どもの頃からの生活リズムチェックは大切だと思います。無理やりではなく、自然に「早寝」「早起き」「朝ごはん」「運動」「元気」が出来るようになると良いと思います。
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたちは早寝早起き朝ごはんを心がけている」と回答する割合	2:60%以上	2	【成果】 回答者数474名 生活リズムチェック週間や健康教育、排便指導等の取組と各家庭の協力により、「早寝」「早起き」「朝ごはん」「運動」「元気」に関する調査結果は向上した。 【課題】 大田区の健康施策とも連携しながら、今後も健康教育を推進していく。	C	0	・大人や指導者が設定した「こうあるべき」や「良い児童像」にとらわれず、真に個性を認めることで、自己肯定感を高める助けになると考えます。また道徳科での学びや様々な体験を通じて、自身の個性に気付くことができる環境づくりにもご期待申し上げます。
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	教員アンケートの結果をもって評価する	1:60%以下	4	【成果】 中学生の職場体験の受け入れや運動会ボランティア、小学6年生の部活体験などは進展がある。 【課題】 保幼小の連携に関して、連携の要望はあるものの、全ての保育園、幼稚園との交流活動は時間的に余裕がないため、対象を検討する必要がある。	D	0	

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	教員アンケートの結果をもって評価する。	4: 80% 以上	4	【成果】 教育課程実践検証協力校として、区内の教員を対象とした公開授業を実施し、主体的に学ぶ児童の姿から授業改善の成果を示す等、気運が高まっている。 【課題】 ICTの活用について、専門的な人材を育成し、系統的・計画的に推進する必要がある。	A	12	・暑い中、子どもたちや先生がフリーマーケットに参加して、大きな声で販売していた事が印象的でした。 ・(成果)学運協の際に近先生から報告を受けましたが、OJTが十分に徹底していて教員も児童も全て「4」で良かったです。 ・児童は、日中多くの時間を共に過ごす教職員の変化に敏感に感じ取っていると思います。教職員が生き生きと働くことができる環境維持をご期待申し上げます。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は地域と連携した教育活動を進めている」と回答する割合	3: 70% 以上	4	【成果】 回答者数474名児童が商店街の盆踊りやフリーマーケットに参加し、全教員が商店街のイベントに参加する等、地域の特徴を十分に生かしている。 【課題】 更に、連携を強化し、持続可能な取組となるよう、コミュニティスクールとして熟議していくことが課題となる。	B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4	教員の平均超過勤務時間をデータで取り、 4. 45時間以下 3. 55時間以下 2. 65時間以下 1. 65時間以上	2: 60% 以上	4	【成果】 会議の精選や校務支援システムの有効活用、教員相互の声掛け等により、12月時点で平均超過勤務時間が34時間になった。 【課題】 校務改善できることは積極的に断行し、教員が児童との信頼関係を深めることができるようにしていく。	C	0	
						1: 60% 以下			D	0	
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたち一人一人の活動が充実していた」と回答する割合	4: 80% 以上	4	【成果】 回答者数474名教員の資質・能力の向上を目的とした、特別支援教室巡回指導教員による校内研修会を行い、連携を強化して指導することで、成果を上げている。 【課題】 教員の指導力向上を図るためには、日常的なOJT研修が必要となる。	A	11	・最近SNS上で、いじめや暴力の動画が上がっていて話題になっていますが、学校で相談できる環境が重要であると感じています。しっかりと支援体制が構築されることを願います。また、商店街も何かあった場合の避難場所になれば良いと思っています。 ・インクルーシブやいじめ等、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応することはとても大変なことと思います。悩みをもった児童や子供達を独りにせず、大切に見守って下さい。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校はこどもの様子や保護者からからの相談等を受け止め、対応している」と回答する割合	3: 70% 以上	4	【成果】 回答者数474名児童自身の絆づくりと安心できる居場所づくりを進め、日常的に児童観察を全教職員で行うように心掛け、早期解決に努めた。 【課題】 他者の尊重・相互理解の精神と、安全で責任ある行動倫理を身に付け、WEB上のトラブルへの対応力を高める必要がある。	B	2	・(成果)教員一人一人が目標に向かって努力しており、それを保護者の方々が温かく見守って下さっており良かったと思います。 ・個別目標3と深い関わりがある項目かと存じます。相方がバランス良く推進される事をご期待申し上げます。
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年間カウンセリング件数(児童・保護者・教員総計)で評価する。 4. 1000件以上 3. 800件以上 2. 600件以上 1. 600件以下	2: 60% 以上	4	【成果】 全校児童を対象とした、スクールカウンセラー面接を行い、児童が相談しやすい環境を整備し、スクールソーシャルワーカー等、関係機関との相談支援体制を構築した。 【課題】 誰一人取り残さず、相談支援が行き届くようにする必要がある。	C	0	
						1: 60% 以下			D	0	
安 柔 個 心 軟 別			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			4: 80% 以上		①について 【成果】 回答者数474名 午口自然農園での体験学習は			・(成果)地域あつての教育、地域と共に生きる学校、この考え方が長く(30年以上)続くことを期待しています。

なで目 教創標 育造6 環的 境な を学 習空 間と 安全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	保護者アンケートで「学校は月に1度の施設整備点検の実施や熱中症防止対策等に努め、子どもが安全に生活できる環境づくりをしている」と回答する割合	4	A	12	・矢口自然農園を大切にしている子どもが多く見られることは素敵だと思います。それが食べ物に対する感謝の気持ちにつながっているように思えます。
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。						
	②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	保護者アンケートで「学校は月に1度の施設整備点検の実施や熱中症防止対策等に努め、子どもが安全に生活できる環境づくりをしている」と回答する割合	4	B	1		
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くりユ庭 りニ・地 まテ域 すイ域 の核連 と携 して協 働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	地域や企業、授業協力者と連携した取組をした回数 4、12回以上(学年×2) 3、10回以上 2、8回以上 1、6回以上	4	A	13	・学校と地域・商店街・同窓会等々との関わりが充実していることは矢口小学校の特色であり、年々その内容は充実している。 おたの未来づくりの実践においても、大変有効に働いていると思う。 まさに矢口小は地域あつての学校である。  ・学校が核になり、地元と連携して各種行事を実践してきていて、CSの活動を中心となって推進している。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						
	②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	こども見守りボランティア「スマイルネット」の活動が毎日行われているため、成果指標は「4」とする。	4	B	0		
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
	③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	学校サイト年間更新数で評価する 4、100回以上 3、80回以上 2、60回以上 1、60回以下	4	C	0		
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。